様式１

【旭区】令和８年第３回区づくり推進横浜市会議員会議　議事録

開催日時	令和８年９月３日(木)　　14 時 00 分　～　　16 時 00 分
場　　所	旭区役所新館２階　大会議室
出 席 者	【座長】増永　純女 議員 【議員：５名】佐藤　茂 議員、こがゆ 康弘 議員、大岩 真善和 議員、 くしだ 久子 議員、木内 秀一 議員 【旭区：24 名】堀口 和美 区長、田畑 哲夫 副区長、 宇多 範泰 旭消防署長、 山本 千穂 福祉保健センター長、 森下 太幹 福祉保健センター担当部長、 嘉悦 明彦 福祉保健センター医務担当部長 岡本 栄里 旭土木事務所長 ほか 関係職員
議　　題	【議題】 １　令和７年度 旭区個性ある区づくり推進費の決算について ２　令和８年度 旭区個性ある区づくり推進費の執行状況について ３　令和９年度 予算編成に向けて
発 言 の 要　　旨	【議題】 １　令和７年度 旭区個性ある区づくり推進費の決算について 増永議員：「あさひのつながり応援・発信事業（P10）」の２あさひの魅力発信事業について、区民ライターの件だが、毎年増えて、記事もしっかり書いていただいてありがたい。やはり SNS との連携を今後、横浜グリーンエクスポもあるので、機運醸成を市民の方にお願いをして記事に書いていくのが重要だと思うが、区役所の考えを伺いたい。 西澤区政推進課長：区民ライターの方には素敵な記事を書いていただいている。多くの方に読んでいただけるように、区のホームページだけなく、民間の相鉄 Style アプリ等での発信も行っているが、

	もっと効果的な広報について引き続き検討していきたい。また、横浜グリーンエクスポ開催に向けて、区民ライターの方にもぜひ記事を書いて発信していただきたいと思っており、そうした形で横浜グリーンエクスポの魅力を伝えていくことを検討しながら進めていきたい。 増永議員：Instagram、note など様々な SNS 発信の手段があるので、ぜひすべてフル活用していただき、また、旭区内でのインフルエンサーの方も増えているので、そういった方にお声がけをして連携をするのも良いと思うので要望しておく。 「文化芸術による心の豊かさ推進事業（P13)」の中で、文化関連事業の参加者数について応募自体が少ないという話を伺っており、６年度 22 事業、７年度は 26 事業だったと聞いている。もし予算が余るなら上限額を引き上げたり、参画をしやすくするというのも手だと思うが、この結果を受けて今後どうしていくか検討状況を教えていただきたい。 露木地域振興課長：次年度以降は積算根拠の団体数を昨年度の実績ベースにしていきたい。要件の見直しについても検討を進めていきたい。例えば、文化活動を通じて地域の課題解決やつながりづくり等の醸成に寄与する事業を支援事業とする等を視野に入れて、事業設計の見直しを進めたり、あるいは高齢者施設に出張で文化芸術活動をレクチャーしていただくようなイベントを募集したり、旭区内団地等も結構あるので、団地の再生や住民のつながりに関係するようなイベント等を行っていただけるような団体を増やしていきたいと考えている。タイミングとしては、５年間という形で今行っているこの補助金の支援事業に関し、令和 10 年度で終了となるため、そのタイミングで制度変更を大きくしていきたいと考えている。 増永議員：参加事業者を増やすという方針にしたいということか。

	露木地域振興課長：参加事業者もそうだが、事業の支援自体を少し幅広に持っていきたいと思っている。特にその地域に特化した文化活動でつながりを作っていけるようなものに対して大きく補助を出していければ、もう少し色々な団体からも手が上がりやすいのではないかと考えている。 増永議員：そこは戦略であり、色々な考えがあると思うが、予算が余ってしまうのはもったいないので、せっかく手を挙げていただいた皆様に還元ができるものがあるのであれば検討願いたい。 この文化関連事業参加者数だが、目標 20,000 人に対して参加者数 14,458 人ということで、達成しなかったものと理解しているが、これに対しての振り返りはどう考えているか。 露木地域振興課長：令和６年度まで旭区民文化祭というものを実施しており、それが終了したものの、そのタイミングで目標値の下方修正を失念したため 20,000 人という目標のままとなってしまっていた。旭区民文化祭は毎年 2,200 人程度お越しいただいていた点を含めると、指標の８割程度の達成率だったと把握している。次年度予算編成時には、そのあたりを含め、目標値の修正をしていきたい。 増永議員：「子育て・若者支援事業（P15）」の３発達障害児等支援事業について、「あさひっ子」をデジタル化したと思うが、このダウンロード実績について教えてほしい。 中山こども家庭支援課長：「あさひっ子」は、これまでずっと冊子での発行だったが、昨年６月にインターネットでも見られるようにした。その後、冊子との併用としていたが、今年１月に改訂したことをきっかけに冊子をやめ、今はインターネットだけで見られる形とした。昨年度の閲覧数は約 1,500 件。今年度に入り、７月末までの閲覧数が約 900 件。合わせて約 2,500 件の閲覧があった。

	増永議員：冊子で配るよりダウンロードの方が効果は出ているという評価になるのか。きちんと届いているということでよいか。 中山こども家庭支援課長：冊子で配っていた時は、大きさがA4でページも100ページほどあり、なかなか持ち歩くのも難しかったということもあった。内容がこういう障害児支援の内容、施設を紹介するという内容の冊子なので、なかなか広報も難しいと思っていた。インターネットの場合は、検索すると、比較的上の方に出てくる。また、ここで紹介している施設を利用していただく場合は、必ず区役所を通して区役所で手続きをしていただくことになるが、区役所に来ていただいた時には必ず窓口でご紹介したり、QRコードが入ったカード状のものをお渡しするような形で紹介をしているのでかなり普及していると考えている。 増永議員：「地域福祉保健計画事業（P18）」の１地域福祉保健計画推進・普及啓発事業の差引額が大きい。この理由について伺いたい。 岩澤福祉保健課長：第５期の地域福祉保険計画策定の支援業務委託の予算額と、実際の落札額の差による入札残である。第４期策定時の契約額や国の単価・人工を参考に予算額を約300万円計上したが、落札をした事業者の積算が、単価および作業時間ともに少なくできるということで、 100 万円での決算額となった。なお、この委託事業自体は滞りなく行われ、計画も無事作成できている。 増永議員：安かろう、悪かろうというわけではないなら安心した。ただし、計上額については見直してもよいのでないか。 岩澤福祉保健課長：前回の実績等をもとに積算してはいるが、今後はより精査した上で予算計上をしていきたい。 増永議員：ぜひ精緻にお願いしたい。 「高齢者生きがいづくり支援事業（P20）」の１老人クラブ支援事業の執行率も低いが、これはどういう状況なのか伺いたい。

	関高齢・障害支援課長：１つ目の原因は、令和７年度実施した 11 の共催事業のうち、輪投げ大会等の５事業について上位入賞者などに記念品等を執行するが、その購入費が想定よりも安価で購入できた点で、残額が約 25,000 円出た。もう１つは、ｅスポーツの体験会の委託経費が想定より安くも抑えることができ、残額が約 20 万円出た。なお、このｅスポーツ体験会については経緯があり、令和７年度当初は、区老連との話し合いの中で、デジタルの視点から効率的に新規会員獲得等の取組みが促せるような団体内の人材育成の研修等をしていきたいという話で予算計上をしていたが、区老連と細かく詰めていく中で、実際にデジタルのスキルを持った方が中にいることもあり、会員の新規獲得や若年層へのアプローチの点もふまえ、ｅスポーツを実施することになった。そのため、この委託費用で残額が発生したが、内容の質が落ちたということではない。この枠組みでスタートして好評だったこともあり、色々なことにつなげていきたいと考えている。 増永議員：「区役所満足度向上事業（P27）」の２一時託児のサービス事業について、予算に対して決算が７万円だが、ほとんど使われてないということか。 小林総務課長：こども青少年局からの予算を先に執行し、不足分について区で執行している。少々見込みより甘かったが、必要な方には届いている。 <u>２　令和８年度 旭区個性ある区づくり推進費の執行状況について</u> 大岩議員：「GREEN×EXPO 2027 参加促進事業（P27）」について、横浜グリーンエクスポに向けて、区長からも力を入れてやっていきたいということを前回お話いただいた。区民の皆様が参加したいのだけども、なかなか参加する入口がわからないとか関わりよう

	がないというようなご意見もいただいているが、旭区として、資料に書かれていること以外の計画があるのか教えてほしい。 西澤区政推進課長：横浜グリーンエクスポに向けて、ますます盛り上げていかないといけないと思っている。横浜グリーンエクスポを知ってもらうために、より多くの方に横浜グリーンエクスポが目に留まる機会を増やしている。横断幕をより目立つよう青地ベースのものにデザインを変え、区庁舎や歩道橋などの目立つところに貼っている。そのほか、商店街のフラッグについて、現在調整中である。また、区庁舎入口に重忠あさひくんのイラストを掲出しているが、そこにトゥンクトゥンクを掲出するなど、区役所にいらっしゃる方の目にも、もっと留まるような形で PR していきたい。また、里山ガーデンでの出展や、12 月 13 日に二俣川駅で行う横浜グリーンエクスポ開催 100 日前記念イベントなどでも横浜グリーンエクスポのことを PR していきたい。 大岩議員：何をやるのかよくわからないという意見が多い。出展する企業に来てもらい、内容について話をしてもらうイベントも良いのではないか。可能であれば是非お願いしたい。また、例えばテレビやラジオなどにもっと取り上げてもらうような方法を関係部署とも連携をして、特に旭区の自治会でいろんなことを実施しているので、企画をしても良いのではないか。 「旭区広報事業（P29)」について、広報に関し、若年層や働く世代に向けてもっと PR していくと聞いているが、SNS の利用にあたり、おそらく今 X を活用していると思うが、やはり若年層には Instagram が効果的だと思う。特に、横浜グリーンエクスポの機運醸成のためにも、リール動画などで PR していく方がもっと盛り上がるのではないか。Instagram の取組の計画の有無について、他区の状況も含め伺いたい。

	西澤区政推進課長：Instagram については、特に若年層をはじめとした幅広い世代に PR できるツールだと思っている。すでに取組んでいる区もあるが、新しい情報をどんどん更新していかないとなかなか情報が届かないといった課題もあると聞いている。課題もふまえ、効果的な手法を確認していきたい。現在旭区では X と LINE を実施しており、X について着実にフォロワー数が伸びているので、そちらで確実に情報発信をしていくとともに、何が一番効果的に区役所の情報を届ける媒体として適切なのかということを他区や他都市の状況等も踏まえながら引き続き検討していきたい。 大岩議員：X を活用しているのであれば、その内容をそのまま Instagram に展開できるのではないか。大変だと思うが、きちんと企画をして予算をかけて活用した方が良いと思う。この資料の中にも、例えばジュニアボランティアの話とか、子育て取組など発信できる内容がたくさんあるので、そのような発信をして届けた方が、旭区に行ってみたいとか、住んでみたいということにつながるのではないか。開始に当たってはルールの整備など難しいところもあると思うが、ぜひ検討してほしい。 木内議員：「街の美化運動事業（P9)」の３あさひみらいサポーター事業の実績で、登録団体が４つと記載してあるが、どのような団体か。 時尾旭土木事務所副所長：個人が１人、清掃を主にやっている団体が１つ、主にお掃除アートをやっている団体が２つで合計４団体。 木内議員：「区民満足度向上事業（P30)」の６行政対象暴力弁護士委任事業について実績の記載が無いが、実際まだ実績はないと捉えてよいか。 小林総務課長：今年度予算化はしたものの、現時点で実績は無い。警察をお呼びするケースは数件あったものの、弁護士相談にまでは至っていない。

	木内議員：区役所で無料法律相談を実施していると思うが、それと違いは何か。 小林総務課長：区役所の法律相談は、区民の方がご相談されたい場合にご利用いただくもの。一方、本事業は、我々行政側に対して何かあったときに、行政が弁護士に相談するというもの。 くしだ議員：「災害に強い区づくり事業（P6)」の６災害時のペット対策啓発事業に関し、ペット等の同行避難とか同室避難は、旭区でも積極的にやっていただいているところ。先日８月 23 日に災害時ペット対策セミナーが実施された。私も拝見させていただいたが、かなり盛況だったように思う。応募状況と、実際の参加状況を伺いたい。 河野生活衛生課長：当初は 60 人の定員だったが、それを上回る 72 人の応募があった。最終的には 68 人の参加者だった。 くしだ議員：区役所のエレベーター等でチラシを拝見した。多くの方が関心を持っているのだと思うが、広報はどのような形で実施したのか。 河野生活衛生課長：SNS や広報誌、窓口等でのチラシの配布により実施した。 くしだ議員：HUG 訓練は良いと思う。関心を持っている方でも、いざその避難所の設営となると、行ったらなんとかなるだろうという意識の方もいるかもしれないが、実際にあの HUG 訓練により運営側の立場になると、いろんな想定の方たちがいて、いろいろなペットがいる。参加者の皆さんが、どのように避難所を運営していくのか結構グループごとに悩みながら対応していた。結果を聞くと、皆さん自分ごととして捉えられたので、非常に良い経験だったのではないかと思う。今後の展開はどのように考えているか。 河野生活衛生課長：非常に好評で、HUG 訓練を行うことで、実際の避難所

	の一時飼育場所で、自分たちが実際に運営をしていかなければならいことを自分ごととして考えていただくことができたと感じている。今後もこのようなツールを使い、自分ごととして考えていただけるような工夫を取り入れていきたい。 くしだ議員：今回、区役所で初めて実施し、いい結果だったと思う。今後展開していくのであれば、それぞれの地区センターなど、より身近なところで参加できる、それが小規模であっても、イメージしやすい、参加しやすいような工夫もしていただけるとありがたい。 同じく動物関係で「安全で安心な食と生活環境支援事業（P11）」の２飼い主のいない猫対策事業だが、ボランティアの方たちから、飼い主のいない猫への取り組みについて、もう少し地域の方たちにも、啓発してほしいという意見もいただいている。地域猫として、なかなか活動自体に理解を得られないようなこともあるので、その辺をもう少し区役所として、例えば掲示板へのチラシの貼付や活動の周知など、自治会の方への啓発活動はできないか。 河野生活衛生課長：現状、広報誌等により飼い主のいない猫、いわゆる野良猫の啓発は実施しているが、まだ十分ではないと認識している。さらに地域に出向いて、直接的に啓発ができるような方法も検討したいと考えている。 くしだ議員：動物との共生について、世の中の価値観としてはかなり醸成されてきていると思う。ぜひ様々なアプローチの仕方を考えていただきたい。 「文化芸術による心の豊かさ推進事業（P15）」の１文化芸術活動支援事業について、昨年度は特別支援事業が４事業で、一般支援事業が 26 事業だったが、今年度の応募状況について伺いたい。

	露木地域振興課長：今年度は全体で 24 団体から申請があった。そのうち一般支援事業が 17 事業、特別支援事業が 7 事業。特別支援事業については、次世代育成やこどもたちの文化芸術活動の体験機会及び横浜グリーンエクスポの機運醸成に向けて、環境行動に関する文化芸術活動と連携した取り組みを対象としている。 くしだ議員：昨年度は、申請のあった全事業が認定されたが、決算額は予算額より若干少なかったと思う。今年度は全事業を認定したのか、それとも対象外となった事業もあるのか。 露木地域振興課長：今年度についても、申請のあった全団体に補助をしている。 くしだ議員：新規の応募はあったのか。継続と新規の内訳を教えてほしい。 露木地域振興課長：新規は１件あった。観客と一体型で行っている創作の舞踊イベントの団体だった。 くしだ議員：このような、地域の方たちの活動の支援は重要だと思う。継続団体も新規団体も、いろいろ広報してなるべく多く支援をしてもらえるとありがたい。 「認知症をみんなでささえるまちづくり事業（P23）」について、前年度と比較をすると、認知症の事業がたくさん増えていると思う。執行率も上がってきていると思うが、取組を強化して、今実際の地域の方たちの反応などの現状を教えていただきたい。 関高齢・障害支援課長：認知症の支援を進めているが、もっと当事者の方たちにスポットを当てていかなければならないと、今支援者の方では考えている。８年度は、当事者にスポット当てた形で、認知症に対してのガイドブックを作成。成果物を使い、様々なところで PR していくことにより、当事者の方たちが気持ちよく地域の中で暮らしていける世界につながり、私たち皆が生きやすい世界につながっていくと考えている。当事者の方たちの

	お声を聞きながらの支援にシフトしていっている。これは国の考え方にも従っている。 くしだ議員：当事者の方たちもそうだし、支援者の団体の方たちも、地域でそれぞれ活動もだんだん広がってきていると思う。旭区は、高齢化率も高く、残念ながらこれから減っていくということにはならないと思うので、そのあたりの仕組みづくりを、しっかり徐々にでも進めていってほしい。 こがゆ議員：「災害に強い区づくり事業（P6)」について、地域で防災活動を様々やっていると思うが、その原資として、自治会向けの防災系の補助金がある。これの使用用途について、各自治会がどのようなことに活用しているかを認識しているか伺いたい。 小林総務課長：補助金の申請の際に、例えば資機材を購入する等、使用目的を記載してもらっており、それぞれの申請単位ごとに把握はしている。 こがゆ議員：自治会町内会によって使われ方が違うと思うが、例えば私の町内会では、いわゆる安否確認タオルを自治会加入者のところにすべて配るということをやっている。これは、連絡先を書いて郵便ポストにたらしておくと地域の方々が安否確認をするのに、一瞬でここは安全だねというふうに見られる。各自治会町内会がどのような防災活動をしているのかを把握し、好事例を横展開してはどうか。参考にしていただきたい。熊本、あるいは千葉、地震だけではなくて、風水害などもいつ何時起こるかもしれないので、地域の防災活動の活性化について、これから力を入れてやっていただきたい。 「あさひのつながり応援・発信事業（P12)」の５地域データの活用支援事業について、データの周知方法・展開方法及びデータ周知の対象について伺いたい。どのような形で利用される方に情報を流すのか。PDF なのか、生データなのか等、どういう

	形で流すのかという点、また、民間事業者が使うのか、行政が使うのか。民間の事業者に渡すデータも大切だが、行政施策として、こういうデータを使い、地域特性を見て集中的に行政の支援を行っていくという使い方もあると思うが、どのように考えているのか伺いたい。 岩澤福祉保健課長：広報については、区のホームページにPDF形式を想定して掲載する。さらに、できれば広報等でデータを活用してほしい旨を広報していきたいと考えている。データ周知の対象については３つを考えており、１つ目は区役所や区社協、地域ケアプラザなど地域を支援する機関。２つ目は企業・法人。ただし、少々ハードルが高い可能性もある。３つ目は町内会や民生委員など、地域で活動されている方。地域支援機関は地域支援のためにこのデータを活用するという形になる。地域で活動されている方については、支援機関とともに、地域活動等を検討実施する際に活用されることを想定している。例えば、高低差のマップと公共機関があるマップを重ね合わせ、高いところに公共機関があるとなかなか使いづらいということがあるので、どういうところに事業展開をすればいいのかとか。また、商業施設のある場所と交通網が比較的少ない地域については、交通網が少ないから、例えばコンビニに進出してもらうにはどうしたらいいかとか、あるいは、その交通網、逆に増やすというようなことは何か考えられないかとか。そういったデータの使い方をしていただきたいと考えている。 こがゆ議員：高低差のデータ、駅やバス停からの距離、そして高齢者率・高齢化率。それらも組み合わせれば、地域交通配置の優先度などのニーズが見えてくるはずなので、行政によっても積極的に活用してもらいたい。 今、鶴ケ峰駅の地下化が進行中で、７年後には開通予定と伺っ

	ている。鶴ケ峰の駅周辺のまちづくり再開発については都市整備局を中心に進めていると思うが、地域のニーズは区役所が受けるはずである。受けたニーズに対して、都市整備局と調整しながら、７年後を目標に鶴ケ峰のまちをどのように作るか区役所も入った中で計画的に進めないと間に合わなくなると思う。まちづくりは何十年単位でようやくできるものだと思う。区役所にはしっかりと区民の意見を踏まえて局とも調整してもらいたいが、区役所の考えを伺いたい。 西澤区政推進課長：相模鉄道本線（鶴ケ峰駅付近）連続立体交差事業は、令和 15 年に完成予定で、まだ時間がありそうだが実際は全然時間がないと思っている。今も区役所、都市整備局、その他関係局と連携しながら検討を進めているが、区役所としては地域の皆様の声をきちんと関係局に伝えていくことが役割だと思っているので、引き続き良いまちづくりが進められるように皆様の意見を聞きながら進めていきたいと思っている。平成 31 年に、鶴ケ峰周辺から区役所あたりまでを含めた幅広いまちづくり構想を地域の意見もふまえ策定しているが、この改定について局と区で連携して検討している。来年度から、特に駅周辺の地域の皆様にご意見を聞きながら、どのようなまちにしていくかという点について検討を進めていきたいと思っている。地域からご意見があるようであれば、ぜひ教えていただきたい。 こがゆ議員：例えば、バスロータリーが駅から遠いとか、区役所も図書館も駅隣接の方がいいという声は非常によく聞く。令和９年度にご意見を聞くとして、令和 15 年の開通まであと６年しかない。後ろのスケジュールを考えれば、いつ何をしておかなければならないのか大体わかると思うので、計画的に進めていただきたい。 佐藤議員：「GREEN×EXPO 2027 参加促進事業（P27）」の５旭区の「農」の

	魅力 PR 事業について、昨年度の実績でも地産地消マップを5,000 冊も増刷しているということで非常に評価が高く人気がある事業だと思う。私自身の体験として、買った場所、農家の方の力の入れ方によって野菜の味が全然違う。例えば、利用されている方々に、ウェブ上などでそのアンケートはできないか。どの農作物が美味しかったとか、何が美味しかったというような評価を少しでも生産者側に届けられると励みになると思うが、考えを伺いたい。 露木地域振興課長：直売所＆地産地消マップを作成している。区内の直売所約 25 店舗、旭区民の方も対象にした市民農園が８件、収穫体験農園が３件、あとは横浜地産サポート店など含め、合計 46 店舗ほど掲載している。実際に食べた方のアンケートについては、区庁舎で毎月第２金曜日にあさひもぐもぐマルシェという、JA や農家にご協力いただき区内で採れた野菜を販売する取組を行っているので、その来場者の方などに、実際食べてみての感想をについてアンケートを取ることなどを検討したい。 佐藤議員：「地域のつながりづくりに向けた民生委員の活動支援事業（P21）」について、民生委員の充足率 79.6%というのは。他区と比べてどの程度なのか教えてほしい。 岩澤福祉保健課長：全市的には約 13%程度欠員が出ている。旭区は 20%程度なので 7%程度乖離が出ている。 佐藤議員：特に高齢化率の高い旭区なので、２割欠員がいるということは、それだけ不足していてお困りの方もいらっしゃることと思う。高齢者が多いにもかかわらず他の行政区より欠員が多いのであれば、予算をかけてでも充足率向上に向けぜひ頑張っていただきたい。 「災害に強い区づくり事業（P6）」の３帷子川改修予定区間カメラ管理事業について、例年、約 80 万円の予算で維持している

	が、今年を見ても、旭区でも結構強い豪雨が多かったと思う。この事業の評価について示してほしい。 小林総務課長：気象警報が出た際には、必ず防災部門にて水位を確認している。今年度も、大雨があった日は1,000回以上のアクセスがある状況なので、地域の方にも多くご確認いただいており、大栗橋のカメラはとても重要だと考えている。 佐藤議員：旭区にはこのカメラ１か所だと思うが、他の地域でも必要と思われるところがあるのか。この地域だけで良いのかどうかについて伺いたい。 小林総務課長：これまで大栗橋に設置しているのは、過去に水害があったため注視をしている。ただ、先日の千葉も含め、どこでいつどのぐらい降るのかの予測が困難なので、カメラという形ではないものの、スポット的に豪雨が発生する例もあるので、気象情報を随時画面で確認し、いつでも避難指示を発令できる体制を構築している。また必要に応じて、土木事務所や消防が現地を確認し、情報を随時入れて注視している。 増永議員：「文化芸術による心の豊かさ推進事業（P15）」の３読書活動推進事業について、市民の方からは、白根の図書館は遠く、現実的に行けないという方お声を聞く。この企画自体、毎年白根の図書館で行うものなので参加者が固定化されてしまっているのではないかと思う。この推進事業で、例えばPOPを作るイベントを出張して様々な場所で実施したりなど、図書館で待つのではなく、もう少し図書に触れる機会をアウトリーチ型で実施することは難しいのか。 露木地域振興課長：毎年会場を白根地区センターとしているのは、旭図書館に隣接しているということが１つ理由としてはあり、参加している中高生の方に、図書館への来場促進をはじめ、図書館の資料を活用して事業展開できると考え、今回このような形で実

	施しているが、中高生自身の読書への興味、関心度等を今後分析していきたいと考えている。利便性については当然検討の余地があると思いますので、区役所や市民活動センター等、利便性が良い場所で実施すればもう少し今まで参加しにくかった方も参加しやすいと思いますので、検討を進めていきたい。 増永議員：最後に「GREEN×EXPO 2027 参加促進事業（P27)」に関する要望だが、これから横浜グリーンエクスポをやる中で、免許証の試験センターに花のオブジェを設置していると思うが、先日免許の更新に行ったら入口の自動ドア右手に設置していたが、皆さん素通りしていた。入って目の前にあるような感じで設置するよう免許センターに要望しないと、効果が薄いのではないか。 西澤区政推進課長：置き場所について、再度確認してみる。 木内議員：鶴ケ峰のまちづくりについて、現在はまちづくり協議会があり、そこが中心となって進めていると理解している。基本的には都市整備局が当局として関連しているという認識だったが、区役所も多少関連しているというように聞き取れた。まちづくり協議会と区役所との関わりはあるということでよいか教えていただきたい。 西澤区政推進課長：鶴ヶ峰駅北口周辺地区まちづくり協議会は現在鶴ヶ峰駅北口地区市街地再開発準備組合となっている。直接区役所が参加してやり取りをするということは行っていない。民間の地権者の方が中心となってやっており、そこに都市整備局の再開発の担当部署が支援しながら進めている。 木内議員：そこで色々と活発な意見が出ていると思う。ぜひそこに区役所にも関与してもらえるとよりスムーズだと思う。 ３　令和９年度 予算編成に向けて こがゆ議員：令和９年度の予算ということだが、権藤区長から堀口区長に

	代わって最初の予算編成となる。今、良い区政をずっと続けていると思うが、新区長として堀口色をどう打ち出していくのか。そのあたりの、来年度予算に向けた意気込みなどを聞かせほしい。 堀口区長：区長に就任し、最初に学校回りを行った。目的は２つあり、１つは校長・副校長と我々区役所との顔の見える関係を作ること。もう１つは、学校は地域と一番つながっており、また次世代のこどもたちとも繋がっているのが学校なので、学校として困っていることとを伺ってきた。例えば先日、万騎が原小学校で校舎建て替えに伴い校庭で体育の授業ができないという話を聞き、関係局と調整した結果、週２回野球場の芝生を使えることになった。その他色々とあるが、学校と地域の結びつきの中で、区役所が間に入って支援できるところをやっていきたいと思っている。本日は区づくり推進費の進捗を説明してきたが、私としてはまず区役所は窓口職場が一番だと思っている。まず窓口で基本の業務が滞りなく行われている。これはやはり職員の努力だと思っている。その上で局の配付予算で足りないところは区づくり推進費で補う。加えてやはり地域の方に喜んでいただきたい。例えばタウンミーティングに出ると、土木事務所が関わるような生活に直結する支援などはとても喜んでいただける。また、自治会町内会の加入を増やしたいのでのぼり旗作ってくれないかというお話などもある。お金をかけることで喜んでいただけることであればすぐにやろうではないかと考えている。そういった区民の皆さんの声を一つ一つタウンミーティング、運動会、盆踊りなど色々なところでお聞きすることがとても大事ではないかと思っている。今回の決算の中でも、先生から指摘いただいたところは、本当にその通りだと思っている。結果が出てないものについては、区民のためになっ

	ているかどうかをきちんと精査しようということで今回議論をしてきた。スクラップアンドビルドをしていこう、もっと別なところに予算を振り替えてもいいのではないか。そういう意味で、副区長から説明した９年度予算編成に向けてというところだと思っている。とにかくまずは横浜グリーンエクスポを成功させること。そして、一人でも多くの区民の皆さん、23 万 9 千人の皆さんに会場に足を運んでもらう。楽しかった、思い出になった、参加してよかった、もうすぐ終わってしまう、終わってしまって寂しいね、そういう風に言ってもらえるように、我々はしなければならないと思っている。加えて先ほど、こがゆ議員からも話があった、鶴ケ峰駅北口周辺のまちづくりや線路跡地の将来像について、「2033 年度の旭区はこれだけ変わっていくよ」というイメージを区民の皆さんと共有できれば良いと考えている。そうした将来の姿を広くお伝えできれば、区民の皆さんはもちろん、旭区への転居を検討されている方々にも、「旭区はこんなに変わっていくんだ」「旭区は魅力的なまちだ」と感じていただけるのではないかと思う。旭区には多くの魅力があり、高いポテンシャルを持つまちだと考えている。そのため、相鉄グループとも様々な分野で連携し、協力できることは協力しながら、一緒になってまちづくりを進めていきたいと思っている。最後はそのレガシー。この横浜グリーンエクスポが終わった後、必ずそこを問われると思っている。花と緑、環境との共生、それをしっかりと継続して継承し、家庭、学校、地域、企業の中でも、その環境に優しい社会を考えて行動変容を起こしていくことがとても大事だと思っている。先ほど触れた、タウンミーティングで、必ず出てくるのが担い手不足の問題である。資料にも載っているが、この第５期のきらっとあさひプランっては、実は地域の中に行くとこれ中心に動いてい

	る。地区社協が中心になり動いているかもしれないが、連合がバックアップしているエリアは本当に進んでいる。具体的に進んでいる、絵に描いた餅ではなく進んでいると思っている。なので、このきらっとあさひプラン、この顔の見える関係、ひいては今回の熊本地震もそうだが、避難所に行って、知らない人ばかりがいるとすごく不安。だけど、避難所にいて知っている人がたくさんいるというだけでも安心感があるということなので、我々も色々な盆踊りとか運動会とかがありますので、それを点と点を結んで線にして顔の見える関係を作っていく。行き着くところは、困った時に支え合える関係を作ることではないかと思っており、そのような意気込みでやっている。
備　　考	会議の議事録作成については座長に一任で異議なし